

長谷ダム堤体直下歩行困難区域図



凡例

- 歩行不可能
- 歩行困難
- 歩行可能

歩行困難度

流速	浸水深		
	1.0 ≤ h	0.5 ≤ h < 1.0	h < 0.5
1.0 ≤ V	不可能	不可能	困難
0.5 ≤ V < 1.0	不可能	困難	可能
V < 0.5	困難	可能	可能

h: 浸水深 (m) V: 流速 (m/s)

解析結果

- 長谷ダムが決壊した場合
- ・ヤロード橋が歩行不可能表示となっていますが、写真のとおり橋の下を流下するため歩行可能です。
 - ・長谷橋は橋の下を流下するため歩行可能です。
- (決壊後約10分)

この図面は農業用ため池のみを対象としたものです。
本農業ため池については、レベル1地震動[※]に対する安定性が確認済みです。

※レベル1地震動: 施設の供用期間内に1~2度発生する確率の地震動

測量法に基づく国土地理院長承認 (使用) R3JHs 93

注記1: 小曲ダムについては、解析において常時満水位かつ決壊を想定していない。

注記2: この図面は農研機構 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門) のSIPOND Professional 版にて、国土地理院「国土基盤情報10mメッシュ標高」を使用してため池が決壊した場合の歩行困難区域を出力し、地形図に重ね合わせて表示したものです。